

やみー・やみー・やみー

No.116

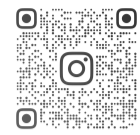
未来へつなげよう おいしい食卓！

大和郡山市田中町913-3 TEL:0743-58-5225

2022年度累計供給高 484,616千円(前年比 100.5%)

12月20日現在組合員数 3,012名(前年比 99.5%)

ホームページやInstagramで
検索してみて



生活クラブ奈良

SEIKATSUCLUB.NARA



生活クラブ生活協同組合

エコロたすけあい制度とは ～少し耳を傾けてみませんか～

2020年度からスタートした「エコロたすけあい制度」は「日常のちよっとした困りごとを組合員同士でたすけあう仕組み」です。地域内でのつながりが希薄になっていけると言われている現代において、「安心して暮らし続けていくために人と人が繋がる地域社会の在り方を共に考えましよう」という呼び掛けから始めました。

これまで、福祉(たすけあい)分野における組合員活動を展開できていない奈良で、この仕組みは広がりがないのではないだろうかという懸念はありました。だからこそ、この「エコロたすけあい制度」を道具にして組合員同士の繋がりがづくりのきっかけとしたいと思い、立ち上げを進めました。

実感がないのが現状

コロナ禍のため、組合員に直接会って伝えることが難しい状況での立ち上げとなりました。

現在の加入者125名。

保障内容は自分たちで

由で加入される方もおり、「立ち上げてよかった」、「もっともっと広めていきたい」とあらためて感じています。

こころ着実に

エコロたすけあい制度は、生活クラブ奈良独自の制度として、自分たちに必要な保障内容を自分たちで作っていくことができます。加入者が増え、掛け金が増えてこそ、「こんな保障作りたいたい」ということが具体化できます。今の状況ではなかなか豊かな保障にしていけるのは難しいのですが、まだまだ始まったばかりですのであきらめてはいけません。

「エコロたすけあい制度」に取り組んでいる全国17の生活クラブ生協の中でも奈良は加入率3.5%と最下位となっています。

加入推進活動で電話かけを行った際、加入しない理由として「今はこの制度を使わないから」というものが最も多く、やはり制度の目的、内容がまだまだ組合員に伝わっていないのだと実感しました。

その一方で、「人に助けてもらった経験から」、「今の自分に必要でなくても将来の自分のために」、「他府県の生活クラブで利用していたことがあり、とても助かったので今度は自分がお返しをしたい」、「少し時間ができたので何か役に立ちたい」などの理由が

現在、エコロたすけあい制度に加入するきっかけとして一番多いのが生協加入時で、職員が生協加入説明時にすすめることで加入につながっています。今年度は少しずつではありますが、毎月加入があります。

課題① 推進メンバーが不足していることです。現在は委員と担当理事の2名で活動を進めています。人と人をつなげるこの制度をもっと多くの組合員と進めるため、共に活動する仲間を募集しています。

課題② 立ち上げ以来、

委員長 甲斐京子

第十回環境省グッドライフアワードにて

環境大臣賞優秀賞受賞！(十一月二十一日)

環境省が提唱する地域循環共生圏の理念を具現化する取組を表彰しその活動を応援するためのプロジェクトにおいて、今年度、生活クラブと山形県庄内地域の「消費者の『食べたい!』が『住みたい』につながった生活クラブと庄内地域のローカルSDGsプロジェクト」が優秀賞を受賞しました。

生活クラブは以前より、生産から廃棄にいたるまで安全や健康、環境に配慮した消費材の共同購入をすることで、生産者も消費者も、共に持続可能な社会のしくみを作ってきました。

今回受賞した庄内地域では、生産者と消費者の関係だけでなく、より地域に根ざして庄内地域の水田の維持と飼料自給の拡大を図る飼料用米の取組み、太陽光発電所の建設、生産者による地域生協づくり、また移住定住の促進による地域の持続性確保などを生産者、消費者の垣

根を越え酒田市や地域事業者とともにすすめています。この背景には、水稲や青果物・果樹などの多様な農産物と、豚肉・水産物・加工食品などを、生協のしくみの上で生産と消費をしてきた、提携の歴史があります。

また、移住者向け集合住宅と地域交流拠点を整備運営する『TOCHITO』プロジェクトを酒田市及び地元事業者とすすめており、すでに2023年春の入居予定者が決定し新たな地域作りが始まっています。

(理事 西涼子)

今後の予定

- 1月24日(火) 14:30~16:30
原子力再稼働で電力需給逼迫は本当に解決するのか
(ZOOMウェビナー)
- 1月27日(金) 10:00~12:00
米沢郷牧場 生産者交流会
(三の丸会館、ZOOM)
- 2月6日(月) 10:00~12:00
講演会「マイクロプラスチックの課題」
(三の丸会館、ZOOM)
(終了後生駒エリア・中南部エリア総会)
- 2月7日(火) 10:00~12:00
ひな祭りのおもてなし料理講習会
(場所は未定 奈良エリア総会)
- 2月10日(金) 14:00~16:30
講演会「脱炭素革命への挑戦」
(奈良県コンベンションセンター)
- 3月(日時・場所は未定)
豆伍心 生産者交流会

食卓に魚が当たり前のように出る毎日

10月27日 三重県漁連生産者交流会 奈良エリア主催

三重県から朝早く出発し2時間半かけて奈良県に到着。久しぶりに対面での交流会となり、生産者も少し緊張気味。しかしグラフィなどを見せながら分かりやすく熱くお話ししてくださいました。あじのさばき方も体験させていただきました。

毎日の食卓に魚を

三重県漁連は「食卓に魚が当たり前のように出る毎日を作りたい」との思いで、様々な形で魚を提供する努力をされています。その一つに人気消費材であるあじフライがあります。国産あじを生から加工するので、臭みなく、水分を含んでい



三重県漁連考案の「あじフライのおにぎらず」。見栄え良く簡単にできて、子どもも大喜び！

るので旨みが残りふんわり仕上がっています。

フライパンで調理

レンジでチンではなく、「フライパンで」を大事にし、こだわって消費材を提供しています。低利用魚であるカマスも新商品「フライパンでかますフライ」として発売されました。

(井手フサヨ)

足や靴のトラブルはもうありませんか？

『足と靴の相談・販売会』パラマウント・ワークス・コープ 11月25日 王寺町地域交流センターにて



一人ひとり足の測定や全身バランスチェックを行い、足と用途にあった靴を提案して頂きました。

購入された方に

お聞きしました。

Aさん(広陵町) 今履いている靴は他で買いましたが、同じようなタイプがありそうだったのでチラシを見て参加。腰が悪くこれ以上悪くならないようにするには、靴が重要だと思



自分に合う靴を選ぶ際に重要なのは、サイズ(足長)だけではなくワイズ(足囲)です。

ました。対応がとても良かったので、また参加したいと思います。 Bさん(橿原市) 足や身体の歪みを見てほしいと参加。選んでもらった靴は自分では選べないデザインでサイズの提案もちがっていた。敷革の下に歪みを調整する物を入れてくれた。対応が良かったので、夫にも勧めたいです。(野口八重子)

簡単お料理レシピ

《ごぼうの甘辛いため》

材料(2~3人分)

- ごぼう(150g)1本
- 片栗粉大さじ2
- みりん 大1
- 砂糖 大1
- A { しょうゆ 大1
- 酢 大1
- 鷹の爪(輪切り) 小1/4

ごま油大さじ2
白いりごま適量

作り方

- ①ごぼうを洗い、5cm幅に切り、縦半分に切る。
- ②片栗粉をまんべんなくまぶす。
- ③ボウルに(A)を入れて混ぜ合わせる。
- ④中火で熱したフライパンにごま油をひき、②を入れて焼く。
- ⑤焼き色がついたら③を入れて中火のまま炒め合わせる。味がなじみ、ごぼうに火が通ったら火から下ろす。
- ⑥お皿に盛り付け、白いりごまをかけて完成。



おいしいみかんを届けたい

11月11日(金)三の丸会館にてアイワ研究会の皆さんとオンラインでの交流会をしました。

日を追って色づいていくみかんの写真や実際の作業風景を見せてもらいながら、4人の方にお話を聞かせてもらいました。20年続けて取り組んでいる雑草を刈り取らずに育てる「草生栽培」、ヒヨドリ・シ

おいしく食べるために

組合員に届けたいため、研究されている苦労が伝わってきました。



カ・サル・アライグマ・イノシシなどの害獣にはトタンを取り付けて侵入を防ぎ、カミキリムシ・カメムシなどの害虫、また最近はやや増加しているサビダニ病が増えているので、見回りを強化して被害が少なくなるように対策を工夫しておられる話を聞き

ました。おいしいみかんを届けるために、みかんの保存について「生産者・組合員はお互いに半分ずつ責任がある」と強調されています。生産者はセンサーでコバエを入れないように袋詰めし、コンテナに丁寧に袋詰めし、コンテナに丁寧に袋詰めし、袋から出し廊下やベランダもしくは冷蔵庫に入れるなど

涼しい場所で保管すると腐りにくいです。皮が薄くて剥きにくいみかんがおいしい。生産者はみかんを4つに割って白い筋ごと食べる。と実演されました。晩柑では木成りはつきくが自慢の一品です。ぜひお試しください！ アイワ研究会は温州みかん6人、晩柑3人の9人で栽培されています。組合員が書いた生産者カードを読んでも、翌年のみかんがもっと美味しくなるように頑張っておられます。私たちもみかんを食べたら生産者カードにメッセージを書いて提出しましょう！ (井手フサヨ)

餃子から見えてくる生活クラブのすごいところ

こじカフェミニランチ交流会 11月3日 生活クラブ生協奈良 本部センターにて

この会は、新規加入組合員に生活クラブの素晴らしさを伝え、また組合員同士の交流や、利用してみている疑問を解決する場として、初めて企画されました。 学習会では、生活クラブとは？ 消費材とは？ といった基本的なことや、餃子を題材に添加物表示のからくり、市販品の安さの理由、ゲノム編集などを職員が講義しました。 ミニランチ交流会では、子どもさんやご主人とともに消費材の餃子と理事、委員が作った料理を、炊きたての



新米と共にいただきました。 爽やかな青空の下、組合員同士の話もはずみ、終始和やかな会となりました。(理事 西涼子)

編集後記

小倉百人一首といえ、お馴染み「坊主めくり」「歌留多とり」など昭和のお正月風景がよみがえってくる。小学生だった小生も、なんとなく覚えたものだ。わたしの原八十島かけて漕ぎ出でぬと人にはつげよ海人の釣り船 などは乗船する平安貴族を描き、人とは誰だろうと想像していた。

ところで最近『通販生活』に「現代歌詠 小倉百人一首」特集があった。これによると参議院が隠岐に流される時に詠んだ歌なのだそう。人には告げよとはかなり深刻な思いだったようだ。 「ふりさけ見る」こともなかった百人一首には遠い昔の百人の今にも通じる心模様を脈打っていたのであった。このお正月、じっくり歌を鑑賞するのも一興かもしれない。(西涼子)